

未来へ
あした



撮影 神馬 悟 12月10日 東松島市矢本仮設住宅で



しおがま・みなと復興市場

大変だけどこで頑張るしかない

塩釜観光栈橋の近くに、“しおがま・みなと復興市場”が、開設されています。被災した地元商店のために塩釜市などが整備したもので、鮮魚・海苔・煎餅・衣類・食堂などが店を連ねています。鮮魚店を出店している佐藤信行さん（43）は、津波で前の店を全て流されました。「大変だけどこで頑張るしかない」と話していました。仮設の店舗は2年間の貸し出しで家賃は無料ですが、冷凍装置など出店の設備や電気・水道代など自前となります。駐車場の誘導員さんは「土日はお客さんが来るのですが、平日は少ないです」とのこと。買い物にきた50代の女性は「少しでも復興の手助けになればと思って、牡蠣を実家に送りました」と話していました。

震災後、一歩ずつでも前進して立ち止まらない事が、復興につながります。（12月18日 しおがま・みなと復興市場にて）

厚生事業協よりタオルと寝袋届く

全日本民医連厚生事業協から、スポーツタオル100枚と寝袋20個が届けられました。スポーツタオルは12月25日の健康相談会で、寝袋は

1月7日に開催の路上生活者の健康相談会で配布予定です。ありがとうございました。



グループ先頭を走る地元日本ケミコンのランナー（2区）

宮城路を駆け抜ける

12月18日、復興市場の取材をしていると、第31回全日本実業団対抗女子駅伝のランナーがすぐ近くを駆け抜けていった。昨年までの岐阜県から宮城県に舞台を移したもので、松島から仙台のコースは津波被害の大きな所で、開催も危ぶまれていました。

東北から唯一出場した地元宮城の日本ケミコンは、33チーム中、昨年からの順位を2つあげて、16位と健闘した。